

2011年
9月号

Mini-WAN

～三河港湾事務所だより～



Mini-WANとは

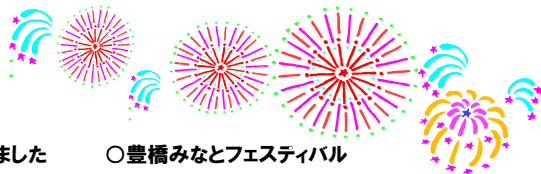
港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

☆CONTENTS☆

■巻頭コラム

■最近のトピックス

- 衣浦港の直轄工事の安全パトロールを実施しました
- 豊橋みなとフェスティバル
- 平成23年度優良工事・業務事務所長表彰の授与式が行われました
- 衣浦みなとまつり
- 「CARM」キックオフシンポジウムが開催されました
- 「衣浦海の環境教室」が開催されました
- 第一回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in三原が開催されました
- JICA研修
- 伊勢湾流域圏一斉モニタリングが実施されました



☆巻頭コラム☆

三河港湾事務所長 平井 洋次



3月号を最後に休刊しておりました当紙面を再開しました。今年も夏はイベントが盛りだくさんでした。日本の元気を津々浦々から発信していきましょう。

今年の夏は梅雨明けは涼しかったような気がしましたが、8月に入ってからは茹だる様な暑さとなりました。夏ですから、暑くないと夏らしくないと思いつつ、暑くない方が三河湾内で発生する貧酸素水塊の規模も小さくなると気にしています。

そして今年は節電です。これも暑いと消費電力が増え、涼しいと消費電力が抑えられると日々気にするわけです。例年以上に消費電力が気になりますが、無理に節電というわけではなく、「こんなところでも節電できるのか。」と新たな発見もありました。

また、今年も「まんが漁」に行ってきました。「まんが漁」とは、鉄のくし状の漁具を海底で引きずって貝や魚を捕る底引き網漁のことです。今年は、シャコは大きさ、量ともにこれまでより小さかったかと思えます。しかし、今年はガザミ(ワタリガニ)でした。毎年シャコを基本としつつも、それ以外のものは年毎に変化があります。同じようなことをしていても不思議なものです。

本文も、工事、防災、環境、賑わいと盛りだくさんです。私ども事務所のメンバーも色々なところを飛び回って、様々な活動に取り組んでいます。是非メンバーの活躍を見ていただければと思います。

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル



おいに よくなれ みなと

0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



国土交通省中部地方整備局

三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>

E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。

☆最近のトピックス☆



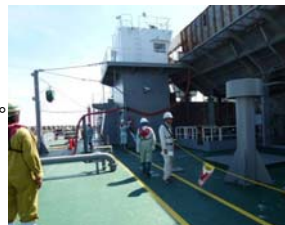
○衣浦港の直轄工事の安全パトロールを実施しました

7月15日、衣浦港の直轄工事である「棧橋の改良工事」と「浚渫工事」を対象に、安全パトロールを実施しました。

7月1日～7日は全国安全週間でした。当局では全国安全週間の時期を目処に、直轄工事を対象とした安全パトロールを毎年実施しています。

全国安全週間は、昭和3年に初めて実施されて以来、「人命尊重」という崇高な基本理念の下、「産業界における自主的な労働災害防止活動を推進するとともに、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ることを目的に一度も中断することなく続けられており、本年度で84回目を迎えます。

安全に対しては受発注者とも常日頃から真剣に取り組んでいることもあり、安全に工事を実施していることが再確認できました。



工事現場で

○豊橋みなとフェスティバル



津波発生模型を見る子供達

7月18日海の日、豊橋みなとフェスティバルが三河港神野地区と豊橋駅前を中心に豊橋市主催で開催され、両会場あわせて約30,000人の市民が集まりました。

このイベントは、市民が港に触れられる機会の創出を目的に昭和52年を皮切りに、今年で38回目を数え、昭和60年からは「みなとフェスティバル」として、平成11年からは、国民の祝日「海の日」に継続的に開催してきたものです。特に、今年のフェスティバルは、東日本大震災からの復興を願い、「がんばろう日本！未来はええじゃないか！」と銘打っての開催となり、神野地区のメインステージでは、復興支援の活動「全国ぎずなキャラバン」を展開する“フラガール”によるダンスショー、「ミスみなと」によるトークショー、和太鼓演奏から、ジャズまで、盛りだくさんのプログラムが実施されました。

当事務所は、津波発生メカニズムと液状化発生の様子を模型を用いて紹介しました。そのほかにも、3月11日に発生した東日本大震災の津波の様子を釜石港湾事務所の職員の方が撮影したビデオも流しました。津波や液状化の模型は子供たちに人気があり、何度も実験を繰り返す姿が見られました。特に液状化の実験で建物や車が沈んでいく様子は好評でした。また、津波のビデオに関しては興味深くを見る人の姿も見られ、時折熱心に職員へ質問をされていました。

○平成23年度優良工事・業務事務所長表彰の授与式が行われました

7月21日、当事務所会議室において「平成23年度優良工事及び業務事務所長表彰並びに関係協力会社事務所長表彰授与式」が行われました。

この表彰は成績優秀な工事・業務を担当した企業または技術者を表彰するとともに、その関係協力会社（専門技術を持つ技能労働者を抱えた下請企業）も表彰するもので毎年7月に行われています。

今年受賞されたのは、工事部門では「平成21年度三河湾環境改善改良工事」を担当した神野建設（株）とその関係協力会社の真木海工（株）と和田建材（株）です。業務部門では「平成22年度三河港神野地区整備検討業務」を担当した（株）ニュージェック中部支店が企業表彰、同業務の管理技術者の大谷祐司さんが技術者表彰を受賞されました。

4社と大谷さんには当事務所長より表彰状が授与されました。



受賞者の皆様：当事務所で



○衣浦みなとまつり



花火を待つ観客

7月23日、「衣浦港みなとまつり花火大会」（主催：同大会実行委員会・碧南市）が衣浦港にて行われました。この花火大会は、昭和48年に当事務所が建設した「衣浦海底トンネル」の開通を契機に続けられている行事で、沿岸自治体が持ち回りで開催しています。

花火は、衣浦港中央ふ頭沖海上に係留する台船上から打ち上げられ、大勢の人が岸壁に設けられた観覧席より見学していました。屋台も出しており、夕暮れ時から大変賑やかでした。今年から地元FM放送で生中継しており、大会を盛り上げていました。来年も引き続き開催される予定ですので是非来てみてはいかがでしょうか。



屋台前はとてにぎわっていました

○「CARM」キックオフシンポジウムが開催されました

7月23日、ホテルアソシア豊橋において、安全安心地域共創リサーチセンター（通称：CARM）主催のキックオフ・シンポジウム「地域の防災・リスク管理を考える」が開催されました。

シンポジウムでは、豊橋技術科学大学から「CARM」の概要説明と取組紹介が行われたあと、「大震災と復興の体験から地域のリスク管理を考える」と題して関西学院大学の室崎益輝教授による特別講演が行われました。

後半のパネルディスカッションでは、センター長の青木伸一教授をコーディネーターに、企業、医療、農業、住宅など各分野の関係者がパネリストとなり、それぞれの立場から防災上の課題や対策について事例紹介を混じえながらの議論が行われました。研究者、行政関係者などを中心に140名を越える参加者があり、会場からも非常に活発な質疑が行われるなど、東日本大震災を契機とした市民の方々の防災意識の高まりを改めて痛感しました。



コメンテーターの事務所長



コーディネーターの青木伸一氏

○「衣浦海の環境教室」が開催されました



船上での測定、記録

7月29日、渡し場かもめ会の手催（協力：高浜市教育委員会、三河港湾事務所）で「衣浦の海の環境教室」が開催されました。当日は小学校2年生から6年生までの児童とその保護者が2グループに分かれて当所港湾業務艇「しおさい」と他の船に乗船し、それぞれ船上で採取した海水を事務所へ持ち帰り、COD（化学的酸素要求量）を測定するなど水質について学習しました。

測定した結果を受けて、衣浦港の海水の汚れを知ることができました。これからは「ゴミを捨てない」などできることから始めることが大切であると実感できたのではないかと思います。

また、防波堤や岸壁、航路で行われている事業内容や衣浦港で取り扱っている貨物について説明を受け、熱心に耳を傾けていました。

この環境教室を通じて今後の港の未来像をどのように作っていくか、職員にとっても改めて考えさせられる機会であったと考えています。



熱心に観察をする子ども達

○第一回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in三原が開催されました

7月30日、31日に海フェスタ三原市実行委員会主催、中国みなとオアシス協議会・中国新聞社備後本社共催、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会後援にて「第一回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in三原」が広島県三原市の三原駅前市民公園で開催されました。



みなとオアシスがまごおりの出展ブース



会場の様子

北海道から九州までの全国のSea級グルメが集まり、連日雨に見舞われたにもかかわらず来場者は1万人を越す大盛況でした。

中部地方整備局管内からは唯一、みなとオアシスがまごおりがNPO法人楽笑さんの多大な協力のもと、ギョロロケドック等のグルメを出展しました。



ギョロロケドックは約460個売れました

関連URL: <http://www.cgr-minato-oasis.jp/gourmet/>
NPO楽笑URL: <http://www.rakusho.info/>

○JICA研修

7月19日、JICA（独立行政法人国際協力機構）の主催する平成23年度集団研修「港湾開発・計画」を受講している研修生（8カ国）13人が三河港を視察しました。

カメリアにおいて三河港の概要の講義を聴いた後、日本ジュース・ターミナル、上組豊橋新車整備センターの施設を見学しました。日本ジュース・ターミナルでは濃縮ジュースをパイプラインで船から荷揚げしてからドラム缶に詰めるまでを見学し、上組豊橋新車整備センターでは輸入車を点検してから完成させるまでの過程を見学しました。日頃見学できる施設ではないため、いろいろなところに興味を持ったようで、研修生からたくさんの質問がありました。



ジュースターミナル内を熱心に視察している様子

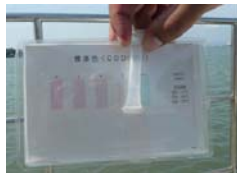
○伊勢湾流域圏一斉モニタリングが実施されました

8月3日、伊勢湾再生推進会議による、「伊勢湾流域圏一斉モニタリング」が行われました。

海の水質が悪くなりやすい夏の時期に、市民の皆様や自治体などとともに、一斉にモニタリング調査（水質及びゴミ等の調査）を行うことで、伊勢湾流域圏全体の水環境の状況を知ることができます。

当事務所では、神野ふ頭沖合および汐川干潟沖合の2地点で、簡易水質測定キットを用いてCOD（化学的酸素要求量）の測定および、周辺海域のごみの浮遊などの目視観察を行いました。

調査の結果は、伊勢湾再生推進会議で集計され、分析・公表が行われます。



CODの測定



※ 伊勢湾再生推進会議（構成機関：国土交通省、海上保安庁、内閣府内閣官房地域活性化統合事務局、農林水産省、林野庁、水産庁、経済産業省、環境省、岐阜県、愛知県、三重県、名古屋市長官舎、名古屋港管理組合、四日市港管理組合）

三河港湾事務所ホームページはこちら <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>